



奈良県
いのちの教育

令和4年度「いのちの教育実践研究事業」



奈良県

「いのちの教育」

あらゆる「いのち」に共感し
「いのち」を大切にする心を育む教育

奈良県が目指す「いのちの教育」

- 動物への思いやりを深め、「いのち」の大切さを実感させる。
- 他者との関わりを深めながら、情操を豊かにする。
- 野生生物を含む自然環境の保護についての理解を高める。

「いのちの教育プログラム」とは？

うだ・アニマルパークで実施している「いのちの教育プログラム」では、私たちと動物との関わりに気付き、動物にも感情や要求(ニーズ)があるということ、動物の「いのち」が私たち人間と同じであることを感じ、それぞれの動物の「いのち」がよりよく生きるために私たちがどのような責任を負い、果たすべきなのかを考えます。



「いのちの教育実践研究事業」とは？

奈良県教育委員会は、うだ・アニマルパークにおける動物とのふれあい等を生かした「いのち」に関する学習を核に、教育活動全体で生命を尊重する心を育てる実践的な研究を行う「いのちの教育実践研究校」を指定し、その取組を県内に広く知らせています。

令和4年度は奈良市立明治小学校と宇陀市立榛原西小学校を指定し、取り組んでいただきました。

うだ・アニマルパークについて

宇陀市大宇陀の県畜産技術センターでは、60年以上にわたり、牛・豚・鶏などの試験研究を行い、様々な成果を上げています。平成13年4月に大家畜(牛)部門が宇陀郡御杖村の「みつえ高原牧場」に移転したことによる敷地の有効活用として、動物とのふれあいを通して次代を担う子どもたちの健全な育成を目指すとともに、県内外のみなさんにレクリエーションの場を提供し、社会全体の発展に寄与することを目指し、うだ・アニマルパークを設置することにしました。

うだ・アニマルパークは、人と動物とのふれあいを通して、動物を学び、動物から学び、そして動物のために学ぶ「いのちの教育」を行い、広く県民に、動物全般に対する理解を促進するとともに、動物に対する愛護の思想について普及啓発を図り、豊かな社会づくりに寄与することを目的とした施設です。



奈良市立明治小学校

『感謝でかがやく みんなのいのち』

【研究課題】

本校は、人権教育の重点教材として「牛の命」を題材に、「命の尊さ」・「労働の大切さ」を全校で系統立てて学んでいる。例年、2年生では、『も～お～うしです！』の絵本から牛由来の食べ物や製品が身近にあることに気付き、命をいただいていることに感謝する学習を行っている。

また、生活科や「いのちの教育プログラム」を通して、実践的・体験的な活動を行うことで、より一層、命の大切さや、互いに思いやる心を育めるよう、取り組んでいきたい。

【取組の概要】

○1学期

- ・生活科「大きくそだてわたしの野さい」
…ミニトマトの栽培

植物にも命があることに気付き、食べ物を大切にしようとする気持ちが育まれた。

○2学期

- ・「いのちの教育」プログラム

動物にも大切な命、心、気持ちがあることを知り、動物のために自分たちができることを考えることで、命を大切にす気持ちが育まれた。

- ・奈良県助産師会による「命の講座」

命はいろいろな人とつながっていて、一人一人の命がかけがえのないものであることを知った。

- ・絵本「も～お～うしです！」

命をいただいていることへの感謝の気持ちが育まれた。

【成果】

普段自分たちの食べているものの中には、動物の命をいただいでできているものがあることを知り、食事のときの命への感謝の気持ちが一層増したと感じる。例えば、給食時、「お残しはもったいない。」と、苦手なものも頑張っ食べようとする姿勢が見られるようになった。

子どもたち同士の関わりの中で、相手を傷つける発言が減り、そのような発言があった場合でも、「その言葉おかしいよ。」といった声が聞こえるようになった。このことから、自分の命だけではなく、周りの友達のを大切にしようとする気持ちが育まれてきたと考えられる。

○年間を通して

- ・給食のあいさつ
「作ってくれた人、育ててくれた人、料理してくれた人、いのちの恵みに感謝して、いただきます。」

命や労働の大切さを意識することができた。



生活科の学習を通して



細かい毛が
たくさんあるよ。



一人ずつミニトマトを育てた。自分たちでお世話をする中で、「今日は少しぬれているから、水は少なめでいいかな？」など、考えながら行うことができた。ICT端末を使って撮影し、細かく観察することで、成長していることを実感することができた。

これらの取組を通して、児童は給食の時間に行っている「**作ってくれた人、育ててくれた人、料理してくれた人、いのちの恵みに感謝していただきます。**」という挨拶に込められた意味について考えを深めていた。



絵本「も～お～うしです！」を通して

これは牛から
作られてるよね。

えっ！？
これも牛から
できてるの？



この絵本を通して、**児童の中に感謝の気持ちや、自分の命だけでなく動物の命も大切にしようという気持ちが芽生えた。**



びっくり!!

〈児童の感想〉

- ・いろいろないのちをもらっていることをべんきょうしました。だから、うしを大切にしたいです。
- ・うしさんのいのちも人のいのちもどうぶつのいのちも、大切にすることがわかりました。
- ・うしさんのいのちをもらってぼくらは生きている。いろいろなものをくれてありがとうございました。

助産師さんのお話を聞いて

①「いのちの誕生の仕組み」について聞いたよ！



受精卵ってとても小さいんだね。

びっくり！



小豆くらいの大きさの卵子があんなに成長するなんてすごいな。

②妊婦体験をしてみよう！



10か月もお腹にいるんだね。

こんなに重いものがお腹に・・・妊婦さんって大変だな！



ちょっと動くのも大変だよ。



赤ちゃんって意外と重たいな。



優しくしないと！

こうやって大事に命が守られて、自分たちが生まれてきたんだな。

いのちは一つしかないから、大切にしよう。

みんなのことを大切に思ってくれる人がたくさんいるんだね。

たくさんの人の命がつながって、今自分たちがいるということに気が付き、「だから、いのちを大事にしないといけない！」と感じていた。



宇陀市立榛原西小学校



『人間も、どうぶつも、しょくぶつも生きている』

【研究課題】

本校は、全校児童72名の小規模校である。校区は中山間地域であり自然に恵まれ、静かな農村地域が広がる。しかし、学校では動物の飼育はしておらず、家のペットも自分が積極的に世話をしている児童は少ない。また、野生動物と人間との関係についても深く考えたことがない児童も多い。

道徳や生活科等の教育活動を通して、自然や生活につながる「いのち」について考え、自分に関わる「いのち」の大切さや、地域の暮らしの営みが多く「いのち」につながっていることに気付かせ、地域を大切に思い、互いの命を大切にしようとする心情を育てたい。

【取組の概要】

○植物と人間のつながり

- ・ミニトマトやさつまいもの栽培
 - ・「明後日朝顔プロジェクト」
- みんなでお世話をしたり、収穫したり、感想を共有したりした。

○動物と人間のつながり

- (絵本) 「きみの家にも牛がいる」、「牛のかたきうち」
 - (見学) 「浦田牧場」、「牛市について」、「なめしの工場」
 - (体験授業) 「皮から革へ」、「ムートンの小物づくり」
- 見学をしてお話を聞いたり、動物の命について考えたり、身近なものが動物からできていることを知った。

○人間のいのちのつながり

- ・「つながるつながる」
 - ・「赤ちゃんの誕生」
- これらの授業を通して、人間の命が何世代にもわたってつながっていることや命の誕生について考えた。

【成果】

植物の成長を通して、命が生まれ変わっていくことや自分の成長を実感することができた。

動物とのかかわりを通して、牛とふれあうことで命を実感し、その牛の命をいただくことで私たちが生きていることや、命のありがたさを学んだ。また、生産者や職人たちの話を聞くことで命を大事に思って働いていることを学んだ。

人間のいのちのつながりを通して、小さな卵子から胎児が大きく育っていくことを体験を通して実感し、命が誕生することについて喜びを感じていた。

今後、この1年間で学んできたことを、これからの生活の場面とつなげて考えていくことで、学びがより深まっていくと考える。



【取組のようす】（小学校2年生）

植物の成長を通して



■ 「明後日朝顔プロジェクト」

全国各地で朝顔を育てて収穫した種を次の地域の人たちへとつないでいくプロジェクト。種をいただき、みんなで水やりをして育てた。

芽が出てきたよ。



つるがだいぶ伸びてきたなあ。

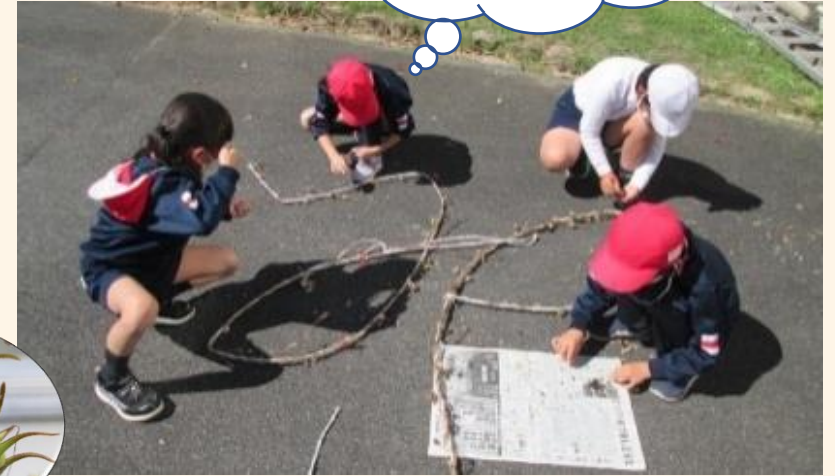
きれいな花がいっぱい咲いたよ。



下の方から実がふくらんできたよ。



1915個の種が収穫できたよ！



自分たちの収穫した種が**次の命へとつながっていく**ことが実感できた。

■ 「さつまいもの栽培」

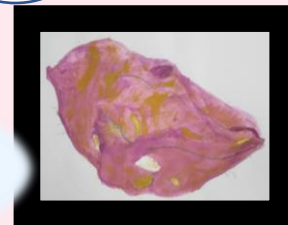


苗から育てたさつまいもを収穫したよ。



1875gの大きなさつまいもができたよ！

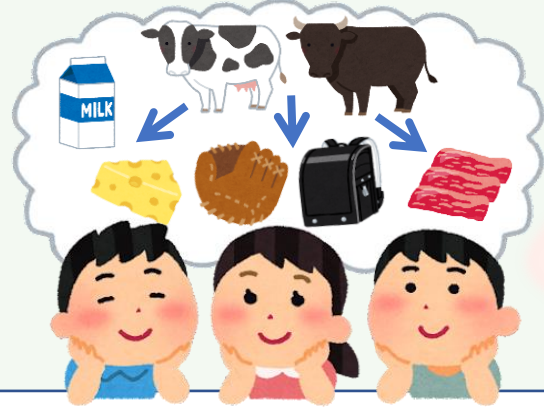
みんなで絵を描いたよ。



自分たちで植物の世話をすることにより、**毎日の成長を感じる**ことができた。また、実や種を収穫する喜びを感じたり、**植物も生きている**ことを感じたりすることができた。

動物とのかかわりを通して

■絵本「きみの家にも牛がいる」



私たちの生活の中には、牛からできているものがたくさんあるんだな。

〈児童の感想〉

- ・牛にいのちをいただいているんなものをつくれるのがすごいと思った。
- ・牛のいのちをとるのはいやだけど、じぶんたちのいのちのためならありがたいと思った。
- ・牛は人のいのちのひとつだと思った。

「きみの家にも牛がいる」という絵本を通して、私たちの身の回りには牛からできているものがたくさんあることを知り、私たちは、**牛から命をいただいて生きているということに気づき、命のありがたさについて考えることができた。**

■「浦田牧場に行こう」



毛がもふもふでやわらかいな。

牛のお世話を毎日する必要があるから、休みがないんだな。大変だな。

牛に触れたり、牧場の人の話を聞いたりすることで、**牛の命を身近に感じる**ことができた。

■絵本「牛のかたきうち」



「牛のかたきうち」は、江戸時代のしきたりで牛が処刑されてしまう物語。「牛のいのち」を通して、**様々な立場の人の考えや思いを想像し、意見を交流した。**